

異文化コラボレーションと同時通訳

Intercultural Collaboration and Simultaneous Interpreting

水野 的*

Rikkyo University Graduate School of Intercultural CommunicationI

Simultaneous interpreting is one of the important agents to mediate intercultural collaboration. In an attempt to understand the cognitive constraints of interpreters, this paper tries to combine interpreting studies and working memory research and propose a theoretical framework for the process model of simultaneous interpreting. After explaining the embedded model of working memory by Nelson Cowan as the most promising model to account for various phenomena of simultaneous interpreting, this paper applies the model to the small corpus of simultaneous interpreting in order to explain the load-reduction strategies employed by interpreters and failures due to the overloading of working memory. Finally, suggestions are made to improve the cognitive environment for interpreters.

1. はじめに

国際会議などで使用される同時通訳は異文化コラボレーションを媒介する重要なエージェントのひとつである。しかし同時通訳は作動記憶 **working memory** を極限まで使用する過酷で複雑な作業であり、聴取、理解、情報の保持、検索、言語変換、訳出、モニターなどの複数の作業を同時に遂行しなければならない。このため同時通訳を介した異文化コラボレーション/コミュニケーションを成功させるためには、コーディネーターやスピーカーは同時通訳というタスクの性質と通訳者の認知的制約を十分に理解し、通訳者が通訳しやすいように認知環境を整える必要がある。

2. これまでの同時通訳モデル

同時通訳が何であるか、どのように行われるか、いかにして可能かについては 1970 年代以降、Gerver [76], Moser [78] などいくつかの情報処理モデルが提案されているが、時期的な制約もあり、通訳者の認知的制約についての理論的解明はなされていない。

一方で認知的制約を語用論的に乗り越えることが可能だという議論がある。Setton [99] は通訳者の言葉以外の知覚、概念的知識、連想、推論、文脈知識、スピーカーの意図や態度の手がかり、以前の談話の知識、準備や会議の進行から得られた知識、世界に関する知識を統合した同時通訳モデルを提案し、語順の非対称による負荷などは語用論的に解決可能であり、同時通訳の認知コンポーネントの中核は「記憶」ではなく、「推論」だとする。しかし Setton は文法的素性が判明するまで複数の構成要素を保持しなければならない場合や、処理の中間産物を目標言語の文法が許容する時点まで保持しなければならない場合、

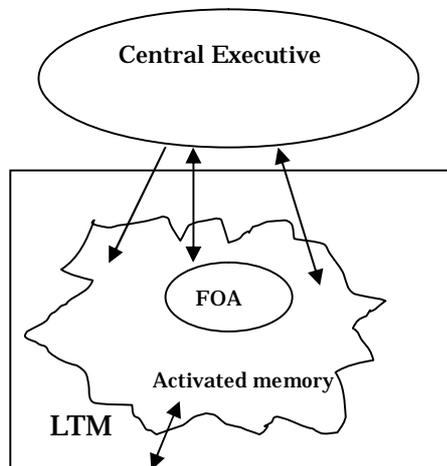
展開していく文脈と照合するまで処理保留のまま保持する場合などの記憶の負荷を軽視している。このような認知的制約の問題は、メンタルモデルや語用論的処理によっては解決しようがない。

Gile [95] の努力モデル Effort Model は同時通訳の情報処理モデルではないが、通訳者の処理容量を問題にして、同時通訳の失敗が起こる原因について重要な示唆を与えた。

3. Cowan の作動記憶モデル

Cowan の作動記憶 (virtual short-term memory) の提案 [Cowan 95; 00/01] は同時通訳者の認知能力の制約について説得的な説明を与えるものとして有望である。作動記憶は言語理解と産出を支えると同時に、その中央実行系は同時通訳における言語変換をにない、貯蔵システムは中間産物を含む様々な情報を保持する役割を果たす。Cowan の作動記憶モデルは「埋め込みプロセスモデル」であり、(1)中央実行系(2)長期記憶(3)注意の焦点(4)活性化された記憶からなる。(図1)

図1 Cowan の作動記憶モデル



連絡先: 水野 的, 立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科, 東京都文京区本郷 1-35-28-1201, TEL: 03-3811-9836, Fax: 03-3811-9836, a-mizuno@fa2.so-net.ne.jp

(FOA は focus of attention, LTM は long-term memory を示す。)

記憶の性質は 3 つに分けられる。(1)注意の焦点にある記憶(2)焦点の外にあるが一時的に活性化されている記憶(3)適当な検索手がかりを持つ不活性の記憶。「必要な情報の一部は注意の焦点にあり、一部は焦点の外にあるがいつでも焦点に入れるように活性化されており、一部は文脈的にコードされた状態で長期記憶にある」ことになる。この作動記憶には制約があり、注意の焦点は無関連の項目(チャンク)がほぼ 4 項目しか入れない(容量制限)。活性化された記憶領域は 10 秒から 20 秒で活性化が消失する(時間制限)。活性化された記憶はその時間制限内に焦点に入らなければならない(速度制限)。意識的に想起される記憶は注意の焦点になければならず、焦点内の情報だけが意識される。注意の焦点には容量制限があるため、情報量が容量を超過すると先に焦点に入った情報が焦点から排除される。

4. 同時通訳への示唆

制約を重視した Cowan の作動記憶モデルの同時通訳の情報処理への示唆は以下の通りである。通訳者が聴取した起点言語のある語彙に対応する目標言語の語彙の検索に手間取ったり、起点言語のあるセグメントの理解に時間を要したりする場合、それによる反応の遅延は、(1)未処理情報が累積し、記憶された情報の一部が脱落する(2)通常なら容易な部分の処理が劣化する(3)通訳作業全体が失敗する、などの結果を生む可能性がある。したがって通訳者は、このような事態を避けるために、注意の焦点に入った情報項目を長時間保持しないような適切な管理と、処理の遅延時間をできるだけ短縮するような処理方略を作り出す必要がある。

5. モデルの同時通訳データへの適用

通常の言語理解の処理も必ずしも発話の順序通りに進むわけではないが、同時通訳の場合は目標言語で文法的に許容される文を作るために語彙項目の順序を逆転させたり、後続の適切な項目と結びつけるためにある語彙項目を保持するなどの操作が必要になる。これはすべての言語組み合わせについてある程度あてはまるが、英語と日本語のように大きな構造的差異のある言語組み合わせの場合、記憶への負荷は大きくなる。

プロ通訳者による同時通訳の小規模なコーパスを見ると、こうした制約から生じる困難が明らかに見て取れる。通訳者は訳出困

難な箇所の多くを「訳出方略」を用いて回避しているが、...concomitant rise of economic issues to global prominence [will enhance the status, the power, and the responsibility] of countries with... のような、注意の焦点に多くの項目を保持しなければならない局面では不完全な通訳に終わっている。これは注意の焦点に保持する情報の管理に失敗したものと見ることができる。Cowan の作動記憶モデルはこれ以外にも短期記憶の制限をはるかに超えるような時間経過の後に訳出が行われる現象[船山 01]などもよく説明できる。

6. まとめ

異文化コラボレーションを媒介する同時通訳が円滑に行われるためには、同時通訳というタスクと通訳者の認知的制約について理解を深め、必要な措置をとる必要がある。こうした措置の中には簡単に実行できるものもある。会議の運営者は事前に必要な資料や原稿を通訳者に用意し、スピーカーは oral communication であることを意識して、原稿を早口で読み上げたりせず、普通のスピードで明快に、文法的単位でポーズを入れて話すことにより、通訳者の認知的制約は大きく改善されるのである。(同時通訳と作動記憶の詳しい関わりについては[Mizuno 05]を参照)。

参考文献

- [Cowan 95] Attention and Memory: An Integrated Framework. New York: Oxford University Press.
- [Cowan 00/01] "Processing Limits of Selective Attention and Working Memory: Potential Implications for Interpreting", *Interpreting* 5(2), pp. 117-146.
- [Gerver 76] "Empirical studies of simultaneous interpretation: A review and a model". In: Brislin, R. W. (ed) *Translation: Application and research*. New York: Gardner Press.
- [Gile 95] Basic Concepts and Models for Interpreter and Translator Training. Amsterdam: John Benjamins.
- [Mizuno 05] "Process Model for Simultaneous Interpreting and Working Memory", *Meta* 50(2), pp. 739-752.
- [Moser 78] "Simultaneous interpretation: a hypothetical model and its practical applications". In: Gerver, D. and Sinaiko, W. H. (eds.) *Language interpretation and communication*. New York: Plenum Press. 著者名: 論文タイトル, 雑誌名, 出版社, 発行年.
- [Setton 99] *Simultaneous Interpretation: A cognitive-pragmatic analysis*. Amsterdam: John Benjamins.
- [船山 02] 同時通訳における対訳遅延の認知言語学的研究, (平成 12-13 年度科学研究費補助(基盤研究(C))(2)、課題番号 12610560)